むすびめ通信

Musubime works for the better society

Bible:エペソ人への手紙4:16

湯本沙友里 ニュースレター

Vol.011 2021 年3月発行

いつもこの活動をご後援いただき、ありがとうございます。今回の通信では、今年１月からエチオピアで開始した活動について、その経緯と合わせてご報告いたします。

2013 年に、ストリートチルドレンの保護活動からスタートしたエチオピアでの取組ですが、子どもたちの置かれた状況を根本的に解決するには、養育者の経済的・精神的自立が不可欠であることに行きつき、地元産業の拡大と就業人材育成に貢献する、接客サービス業人材の育成の事業を始めるに至りました。

継続するために昨年も春頃の渡航を計画していましたが、コロナウイルスの影響もあったため調整し、これまでしてきた活動内容も一度見直す必要があるのではないかと、考えていました。

コロナの影響によって生活に支障をきたしている方々がエチオピアにもいることを現地パートナー達から聞き話し合いを重ねる中で、私が所属する NGO(「声なき者の友」の輪) でもアドバイスを受けながら、渡航せずとも「リモート協働」という形で、出来る範囲での小さなプロジェクトを開始し、今だからこそできる形のエチオピアとの協力関係を継続していくことにしました。

内容

■新型コロナウイルスの影響で、通学日数が減っている子どもたちが、勉強を継続していけるコミュニティ・スペース(補習校)づくり

エチオピアの公立学校では、コロナの感染予防として
クラスの人数を減らすために、こどもたちを２つのグループに分けて１日置き通学の措置をとっているそうです。

そのため、授業のペースが遅れているというだけでなく、通学を断念して家の手伝い (労働) を始めることになったり職を失った両親の元で家計を助けるために早期結婚をさせられる少女の問題や、家に居場所がないこども (虐待や育児放棄されている、親戚の家に預けられ肩身が狭い、など)、安全な場所が失われている現状があります。また、両親が仕事をしている時間帯に、寂しくならずに過ごせる場所も必要です。

子どもたちが安心して過ごすことができる「居場所」として、勉強に取り組める、コミュニティ・スペースを始めることにしました。また、昨年末からエチオピアは、コロナの影響、北部ティグライ州での紛争、バッタの大量発生による穀物被害などの厳しい状況が続いています。このような大きな問題に対して直接対応することは、小さな個人の繋がりである私たちには難しい事ですが、国の未来を良いものへ創造するこどもたちの育成を、教育と情緒の面でサポートすることで、未来のエチオピアに貢献できたらと願って、「教育」に焦点を充てることにしました。

使用されていない建物を借りて、補習校を運営しています。
しばらく放置されていた場所のため、内装と外装の整備も少しずつ行なって、安全に過ごせる場所づくりをしています。

１月中旬頃から準備を始めて、２月からクラスを開始しています。過去に海外の NGO が建設した後に廃校になって放置されていた小さな学校を借りて、エチオピアで備品を購入したり、地元の学校の協力で貸してもらったりしながら教室の準備を整え、地域の家庭に声を掛けました。場所が狭く距離感を保つことも考えて、収容人数は 25 名 ~30 名くらいまでで設定しています。1 ヵ月の間で、17 名の生徒が集まるようになりました。

運営メンバー紹介

エチオピア：２名
(Dereje/ 小学校ディレクター、Tesfay/NGOスタッフ・看護師)
日本：２名
(湯本、ボランティア１名 / 中学教諭：エチオピア滞在経験有)

メンバーは皆、本業と掛持ちでこの取組に関わっています。エチオピア２名は８年近く NGO でのストリートチルドレン救援や田舎に住む少女の健康ケアなど、社会貢献活動に関わってきました。

エチオピアの運営メンバー

予算と期間

■予算　月３万円＋α
（送金手数料や、必要に応じて調整）
用途：場所のレンタル料、ホワイトボードや机・椅子、教材などの備品購入費、通信費、旅費交通費、ボランティア謝儀など

■期間　まずは 2021 年２月から 10 ヶ月の活動を予定しています。その後は状況に応じて検討していく予定です。この期間に運営の流れや仕組みが良いものにできるのであれば、備品などのリソースをそのまま用いながら、必要な資金を現地で集めるようにしたり、支援方法を練り直したり、継続できる仕組みにすることも念頭にいれています。持続可能な働きに繋がることを軸におきながら、今年いっぱいを試運転期間として、現地のメンバーたちの主体性と計画案を尊重しつつ話し合いを重ね、長期計画と予算の使い方を考えて柔軟な取組みにしていくつもりです。

こどもたちの居場所づくりと、エチオピアと日本の関係づくり

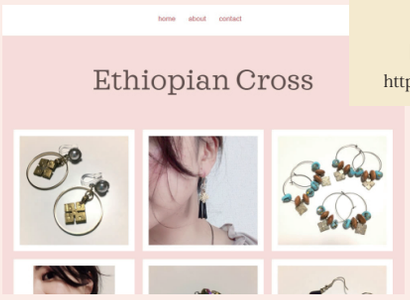
活動内容はこれまでとは違うものですが、目的は変わっておらず、社会や家族が抱える問題によって、負の影響を受けざるを得ない人々、特に貧困によって弱い立場に追いやられている子どもたちの環境 (物理的にも心理的にも) が改善され、未来に繋がっていくことを目指します。エチオピアのメンバーには、私が日本で立てた計画に沿って遂行してもらうことよりも、彼らの今の仕事や人生経験、得てきた知識や、養ってきた視点（問題意識・当事者性）、活動への積極性などを尊重し責任をもってもらいながら、日本とエチオピアで同じ目的を持つ同労者の関係づくりにも、焦点を充てていきたいと考えています。

かつて海外の NGO が教育支援に取組むために建てた校舎だったそうですが、運営が断念されてしまったと聞いています。地域には勉強を望んでいる子どもたちがいるので、この取組が役に立てばの願っています。

多くの機会を作りたいとも願うのですが、私たちには人力も予算も限界がありますので、自分たちの許容範囲を見定めながら「目の前の一人が幸せと感じられるように、成長できるように」寄り添い共に成長していきたい、そのように話しています。
このニュースレターを読んでくださっている皆さんにも、この時期を一緒に乗り越えるという視点で、エチオピアと日本との間で築き上げられているこの関係の仲間の一人だと感じていただけますと嬉しい限りです。

今回協働しているエチオピアのメンバーたちと、当時関わっていた NGO のスタッフたち (2017 年)。

その他お知らせ



オンライン・ショップ
【エチオピアン・クロス】
https://ethiopia.handcrafted.jp/

エチオピアのアクセサリーや雑貨などを販売しています。売上の一部は活動のための資金に充てられます

連絡先

湯本 沙友里 Sayuri Yumoto
Email：sayuri@karashi.net

支援のための寄付方法

支援をもってご協力くださる方はお手数ですが下記の口座にお振込みください。報告はニュースレターにて随時お知らせしますので、配信ご希望の方はご連絡ください。

①ゆうちょ振替口座　口座番号：00180-0-300201
名義：FVI
★通信欄に「湯本指定」とご記入ください。

②ゆうちょ振替口座　口座番号：00830-9-137685
名義：湯本沙友里
他行等から　店名：〇八九店　当座　0137685

支援金はどちらの口座も同様に、活動に関わる経費に充てられます。FVI名義の口座では、湯本が所属する非営利団体「声なき者の友」の輪を通して税理士より監査を受けて、年次報告いたします。ウェブサイト（karashi.net）から閲覧可能です。